

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

2019 AUTOBACS SUPER GT Report

OKAYAMA GT 300km RACE

第1戦 岡山国際サーキット

ZENT CERUMO LC500

#38 立川祐路／石浦宏明

◆4月14日（日） RACE

決勝結果 8位

LEXUS TEAM ZENT CERUMO が信頼をおく石浦宏明の、予選 Q1 でのまさかのわずかなタイムロスにより、Q2 進出はならず 12 番手からスタートすることになった ZENT CERUMO LC500。ただ、決勝日に向けて天候がどうなるか分からない天気予報が出ていたこと、そして ZENT CERUMO



LC500 に好感触を得ていたことから、チームはレースでの順位回復に向けしっかりと準備を整え、石浦の誕生日パーティを祝いながら、4月14日（日）の決勝日を迎えた。

早朝こそ曇り空だった岡山国際サーキットだが、決勝日のピットウォークが終わりを迎えた午前11時前から、コース上には強めの雨が降りはじめた。コースはみるみるウェットコンディションに変化し、チームは ZENT CERUMO LC500 をウェットセットに変更。午後0時55分からのウォームアップ走行では、立川祐路が ZENT CERUMO LC500 の状況をチェックし、1分33秒980というベストタイムで6番手で終えた。

午後2時30分にセーフティカースタートで迎えた決勝レース。スタートドライバーは立川だ。3周のSCランを経て熱戦の火ぶたが切られたが、立川はまず



LEXUS TEAM ZENT CERUMO

ひとつ順位を上げ 11 番手に浮上する。ただ、直後に GT300 クラスでのクラッシュが発生したため、ふたたび SC が導入されることになった。



立川はリスタート後も前を追うが、今度は 13 周目、モス S で GT300 クラスの 3 台が絡む多重クラッシュが発生し、パーツが飛散。レースは赤旗中断となってしまう。ZENT CERUMO LC500 は他のレクサス勢とも異なるタイヤ選択をしており、この時点ではそれが奏功し 9 番手に上がっていたが、立川は一度コクピットを下りることとなった。

雨は強くなったり弱くなったりと、依然コンディションが回復しないままレースは午後 3 時 45 分にセーフティカー先導のもと再開される。ヘビーウェットのなか、ZENT CERUMO LC500 の前を走っていた #37 LC500 が SC 中にコースオフを喫したことから、立川は 8 番手に浮上する。

セーフティカーランの後、20 周目にレースは再開となるが、立川はウェットのなかタイヤの温まりに優るライバルへの先行を許してしまう。それでも前とは離されずに戦っていたが、今度は 24 周目、GT500 クラスのトップを争っていた No.1 NSX-GT と No.17 NSX-GT が接触。No.1 NSX-GT がグラベルに埋まり、さらに雨脚も強まったことから、レースは 4 回目のセーフティカーランとなった。

このままいくと、レースの最大延長時間を過ぎてしまう恐れがある。周回数は何周になるのか、そしていつピットに戻り石浦に交代すればいいのか……。村田卓児エンジニアと石浦、そしてチームはピットで必死に計算を続けていた。



ZENT

LEXUS

Racing Development
TRO

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

WAKOS

asics

FRUSEE

Jms

T-SELECT

TAMACHI

CABANA

トヨタ東北大

EBS

SHOWA
BRAKE FLUID

MV
MECHANICAL WEAR

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

ただ4回目のセーフティカーの際、同時にGT300クラスの車両もクラッシュしたりと、セーフティカーは長引くことになってしまった。最終的に16時04分、SC先導のままレースは2回目の赤旗中断となってしまう、そのまま天候が回復しないまま、終了という判断が下されることになった。



LEXUS TEAM ZENT CERUMOにとっては、レースでの挽回を期待しながらも、それは強い雨脚に阻まれることになってしまった。しかし、そんな展開のなかでも8位でフィニッシュし、きっちりとポイントを獲得することができたことは長い今後のシーズンを考えても大きい。レースの途中中止は残念ではあるが、次戦、ホームコースの富士スピードウェイでの挽回を誓い雨の岡山を後にすることになった。



ドライバー／立川祐路

「スタートからすごく難しい天候で、ほとんどウォータースクリーンで前が見えないままのレースとなっていました。少しでも挽回しようと頑張りましたが、セーフティカーも多く、なかなかレースが戦えませんでした。ただこればかりは仕方ないです。今回の分を次戦の富士スピードウェイで取り返しにいきたいと思っています」



LEXUS TEAM ZENT CERUMO

ドライバー／石浦宏明

「今週末はもともと悪天候の予報が出ていましたが、そのなかで本当にたくさんのファンの皆さんが岡山国際サーキットに来られていたので、皆さんの前で最後までレースを戦うことができなかったのは残念です。その分、次のレースでしっかりと良いところをみせたいと思っています。自分のなかでは、前日の予選ではパーフェクトに決められなかった悔しさを挽回できずに終わっているので、チームのみんなにも申し訳ないですし、次のレースで挽回できるよう、しっかり準備していきたいと思っています」

立川祐路総監督

「今日はあいにくの天候となってしまいました。ほとんどレースらしいレースができなかったのも、応援に駆けつけてくださったファンの皆さんには申し訳ないと思っています。ただかなりコンディションが悪く、危険な状況もあったので、やむを得ない判断だったと思います。その分、次戦富士でチームが一丸となっていいレースをみせたいと思っていますので、ぜひ応援に来ていただければと思っています」

村田淳一監督

「天候が悪いなかで、スタートを努めてくれた立川選手がしっかりと順位を上げてくれたのが8位という結果に繋がっていると思います。ベテランならではの巧さが出ましたね。タイヤ選択についても、他のレクサス勢とは違う判断をしたのですが、総監督とエンジニアが判断して決めてくれたので、新体制がさっそく良い方向に向いたのではないのでしょうか。チーム一丸となってきているので、次戦もいい戦いができると思っています」



LEXUS TEAM ZENT CERUMO

決勝結果表

Rank	Car No.	CarName	Laps	Time	BestLapTime
1	8	ARTA NSX-GT	30	1:53'35.505	1'31.767
2	23	MOTUL AUTECH GT-R	30	1:53'36.732	1'31.791
3	12	カルソニック IMPUL GT-R	30	1:53'38.286	1'32.494
4	3	CRAFTSPORTS MOTUL GT-R	30	1:53'39.715	1'31.411
5	24	REALIZE CORPORATION ADVAN GT-R	30	1:53'41.278	1'33.180
6	19	WedsSport ADVAN LC500	30	1:53'44.108	1'33.561
7	16	MOTUL MUGEN NSX-GT	30	1:53'45.532	1'33.893
8	38	ZENT CERUMO LC500	30	1:53'47.005	1'35.771
9	36	au TOM'S LC500	30	1:53'47.712	1'34.732
10	64	Modulo Epson NSX-GT	30	1:53'49.119	1'35.132
11	39	DENSO KOBELCO SARD LC500	30	1:53'50.409	1'35.085
12	37	KeePer TOM'S LC500	30	1:53'52.425	1'34.819
13	6	WAKO'S 4CR LC500	30	1:53'53.140	1'35.371
14	17	KEIHIN NSX-GT	30	1:54'08.433	1'31.085
15	1	RAYBRIG NSX-GT	29	1:53'54.895	1'31.763

Fastest Lap No.17 Koudai Tsukakoshi 1'31.085 22/30Lap(146.36km/h)

No.1 K.Tsukakoshi(16:05)競技結果に対して 34 秒加算

(Spr.13-1.b.「危険なドライブ行為」レース中のドライブスルーペナルティ未消化)



LEXUS TEAM ZENT CERUMO



ZENT

LEXUS

Racing Development
TRD

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

WAKOS

asics


HASEE

Jms
JMS

T-SELECT

TAMACHI

CABANA
RACING

トヨタ東海大

BBS

SHOWA
BRAKE FLUID

MV
MECHANICAL WEAR